

公開講座(東京)

教育現場でしましょう

お金のはなし

金融教育は子どもたちに 何をもたらすのか

開催日 **11月17日(土)**

主催：東京学芸大学
みずほフィナンシャルグループ

後援：文部科学省
東京都教育委員会、埼玉県教育委員会、
山梨県教育委員会、川崎市教育委員会、
横浜市教育委員会、小金井市教育委員会、
国分寺市教育委員会、小平市教育委員会

対象：全国の小・中・高等学校教員、大学生、その他関心のある方

2007年11月17日(土) 午後1時から午後5時まで

場所：東京学芸大学 芸術館
東京都小金井市貫井北町4-1-1

参加申し込み：参加無料。(但し、先着順)
裏面の申込用紙、又は以下HPアドレスから、事前にお申し込みください。
<http://www.mizuho-fg.co.jp/u-gakugei/kokaikoza.html>

従来の学校教育では、「お金」にかかわる内容は主に社会科や家庭科において扱われてきましたが、それらが体系的に教えられることはありませんでした。最近では、若い人たちにもクレジットカードの利用が普及するなど決済手段の多様化が進んでおり、学校教育の早い段階から金融のしくみを学習し、「自己責任原則」などの金融の約束事をしっかり身につけていくことが、子どもたちにとって大切になってきています。

本研究プロジェクトがめざす金融教育は、株取引や投資の手法を教えることではありません。複雑化・グローバル化した社会において、自立した生活者として生きていくことができるように、「お金」の流れや銀行の役割にはじまり、さらには将来の人生を設計するうえで必要な金融の知識を、子どもの成長に合わせて教えることです。

このような視点にたって、前半のシンポジウムでは、学校教育、経済教育、法律教育、キャリア教育、の視点から金融教育の必要性や課題について、幅広く意見を交換し、これからの金融教育の展開の指針を提示したうえで、後半の授業解説では、実践的な授業づくりの取り組みを通して、金融教育の進め方を、皆さんと一っしょに考えてみたいと思います。

公開講座の主な内容

開講挨拶 13:00～13:05

長谷川貞夫(東京学芸大学教授)

来賓挨拶 13:05～13:10

田口 康(文部科学省 研究振興局 研究環境・産業連携課長)

シンポジウム「金融教育は子どもたちに何をもたらすか」 13:10～14:40

田中 智志(山梨学院大学教授・附属小学校校長)
牧野 文夫(東京学芸大学教授)
村 千鶴子(東京経済大学教授・弁護士)
久保田慶一(東京学芸大学教授)

休憩時間 14:40～14:50

全体会(授業解説) 14:50～15:45

- 「円高・円安とはどういうこと」
上園 悦史(東京学芸大学附属竹早中学校教諭)
- 「『起業家学習』と金融教育のコラボレーション」
大澤 克美(東京学芸大学准教授)

挨拶 15:45～15:50

足立 康德(みずほフィナンシャルグループCSR推進室長)

移動 15:50～16:05

分科会(授業解説) 16:05～17:00

- 社会科「お金ってなんだろう」
大澤 克美(東京学芸大学准教授)
渡邊 直子(みずほフィナンシャルグループ調査役)
- 家庭科「家庭科における金融教育の実践と課題」
田中 敬文(東京学芸大学准教授)
大竹美登利(東京学芸大学教授)
- 道徳「お金は人の心を変えるだろうか」
山名 淳(東京学芸大学准教授)
近藤 精一(東京学芸大学教授)
- 総合学習「お金の流れかた」
中田 正隆(東京学芸大学教授)
林 敏朗(みずほ総合研究所参事役)
- 特別支援教育「金融機関の利用、安心な暮らし」
伊藤 友彦(東京学芸大学教授)
小金井俊夫(東京学芸大学附属特別支援学校教諭)